

令和6年度 第1回半田市いのち支える自殺対策推進協議会について

日時:令和6年5月16日(木)

14時~15時30分

場所:市役所 会議室301

1 はじめに

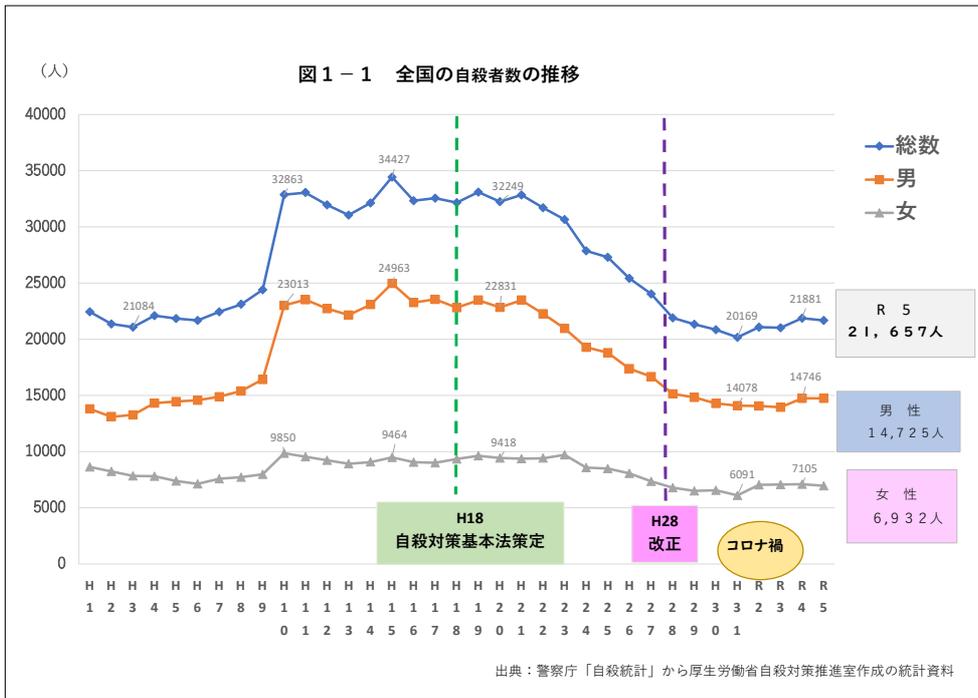
2 報告事項

- (1) 本市の自殺に関する現状について 【資料1】

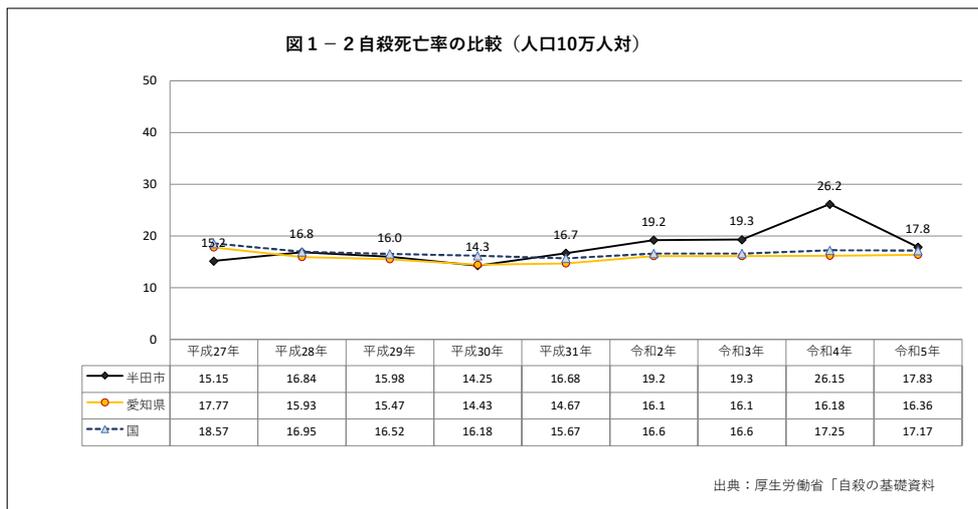
3 協議事項

- (1) 半田市自殺対策計画の最終評価について 【資料2】
(2) 半田市自殺対策計画の骨子(素案)について 【資料3】
(3) 第2次自殺対策計画の名称について 【資料4】
(4) 半田市民健康づくり推進協議会および自殺対策部会について 【資料5】
(5) 第3次健康はんだ21計画及び
第2次半田市自殺対策計画(素案)の骨子について 【資料6】

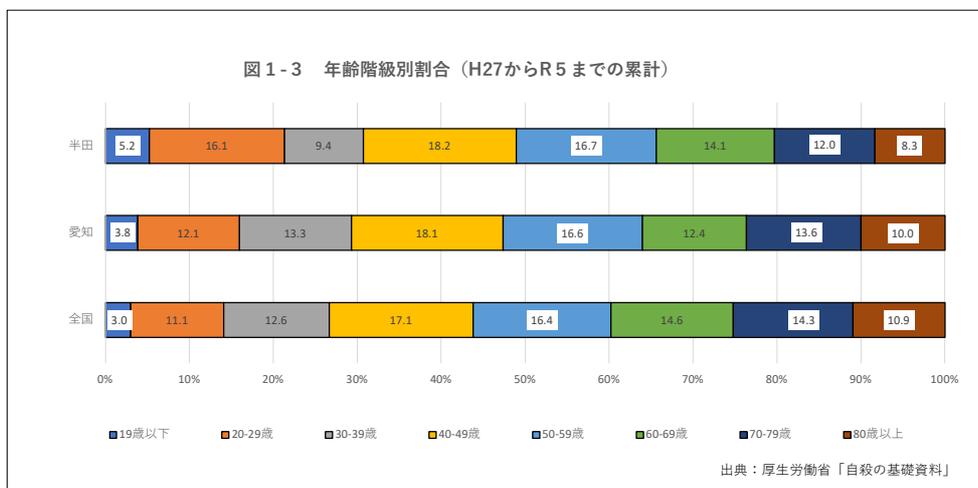
4 その他



図は平成元年から令和5年までの全国に自殺者数の推移を示したもの

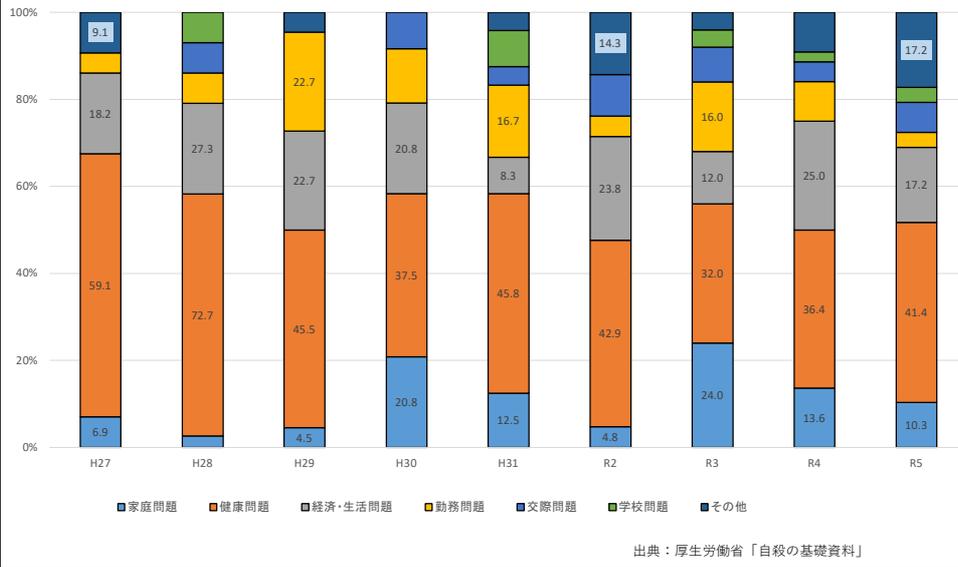


図は平成27年から令和5年までの国・県・半田市の人口10万人対の自殺率の推移を示した



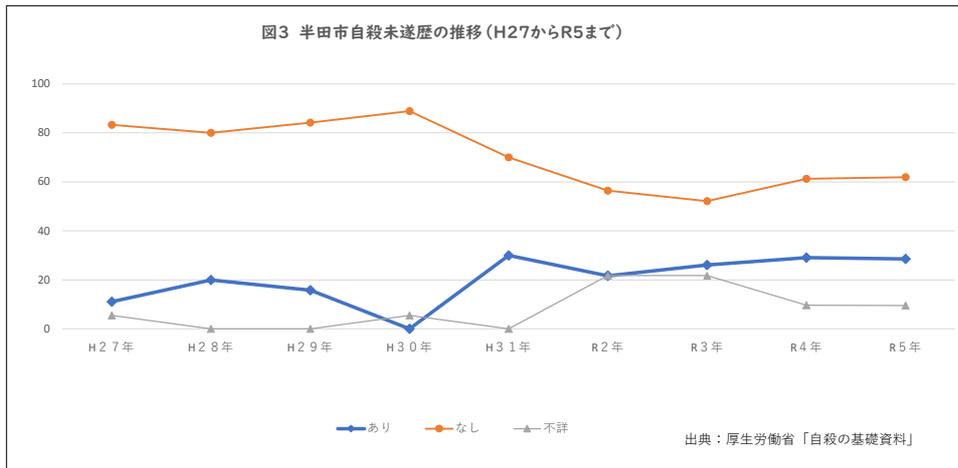
図は平成27年から令和5年までの国・県・半田市の年齢階級別割合を示した

図2 原因・動機の内訳の推移 (H27からR5まで)



図は平成27年から令和5年までの半田市の自殺の原因・動機の割合を不詳を除き年次別に表示した

図3 半田市自殺未遂歴の推移 (H27からR5まで)



図は平成27年から令和5年までの半田市の自殺未遂歴の有無を年次別に表示した

◇地域におけるネットワークの強化に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
半田市いのち支える自殺対策推進協議会の定期的開催	—	年1回	年1回以上	年1回

【評価および今後の方向性】

目標の回数は達成することができました。自殺対策を総合的に推進するためには、様々な機関が連携し、包括的な支援を行っていく必要があります。関係機関が自殺対策について共通認識を持ち、連携を取りながら今後も対策に取り組みます。

◇自殺対策を支える人材の育成に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
民生委員・児童委員向けゲートキーパー養成講座の実施回数	—	8地区	全8地区で 実施	全8地区で 実施
市職員向け・市民向けゲートキーパー養成講座の実施回数	年1回	年5回	年3回 以上	年5回
にじいろサポーター養成人数	延134人※	年24人	年30人	年38人

※H29年度までの養成人数

【評価および今後の方向性】

地域の相談役である民生委員・児童委員を対象に市内全8地区でゲートキーパー養成講座を実施しました。

また、コロナ禍で若者や女性の自殺者数が増加したため、小中学校の教員や生命保険会社の営業職など、支援者となり得る方を対象にゲートキーパー養成講座を実施しました。また、公的な相談窓口にて適切な対応ができるよう市役所の新入職員を対象に、講座を実施しました。今後も広くゲートキーパー養成講座を実施していきます。

さらに、地域サロンの参加者を対象に、地域と行政、社会福祉協議会等をつなぐ、にじいろサポーター養成講座を開催しました。現在、福祉事業所が地域の相談を受けて関係機関につなげるしくみとして「ふくし相談窓口」の設置を進めているところです。今後は、地域の見守り体制強化やにじいろサポーターの養成のため、サロン等に対して「ふくし相談窓口」の周知を図る講座を実施する予定です。

◇市民一人ひとりの気づきと見守りの促進に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
悩みごと各種相談窓口一覧表の作成及び配布	1,466部	2,500部	1,500部	3,300部

【評価および今後の方向性】

半田市医師会や知多薬剤師会にご協力をいただき、市内医療機関や調剤薬局など設置場所の拡大を図りました。また、公共の相談窓口に市民団体3か所などを加え、一覧表の内容の充実を図りました。今後は、紙での配布に加え、幅広い世代へ情報が届くよう、ホームページの充実や SNS での情報発信を行っていきます。

◇子どもたちの生きる力を育てる支援に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
乳幼児健康診査受診率	99.3%	99.5%	99.5%以上	99.6%
子ども相談ダイヤルの設置	検討	設置	設置	設置

【評価および今後の方向性】

乳幼児健康診査については、受診日の変更等を柔軟に対応しながら実施し、受診率向上を図りました。健診を受診していない乳幼児に対しては、家庭訪問等を実施し、すべての乳幼児の家庭状況等を把握することができました。健診時には、子どもの発達面のみでなく、保護者の心身状況も適切に把握し、支援をしています。

学校教育課にサポート相談窓口「子ども相談ダイヤル」を設置し、教育相談員やSSW※が電話などによる相談・個別の支援を行っています。令和6年度はSSWを1名から3名に増員しており、今後も福祉・心理分野の相談体制のさらなる充実を図っていきます。

※SSW：スクールソーシャルワーカー

◇生きることの促進要因への支援に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
地域でのストレスチェック実施回数	36回	20回	20回以上	14回

【評価および今後の方向性】

令和2年の新型コロナウイルス感染拡大以降、唾液によるストレスチェックは、感染状況を鑑みて実施したため、開催回数が減少しています。

そのため、新たに自律神経のバランス測定機器を用い、保育園、幼稚園等の保護者を対象に、セルフケアやストレス状態について普及啓発を行いました。

今後は、測定機器やアンケートなどを活用し、こころの健康について考える機会をより多くの市民に提供できるよう、普及・啓発に努めます。

◇高齢期に関する自殺対策の推進に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
げんきスポット数（地域介護 予防活動支援補助団体数）	88 団体	202 団体	250 団体	209 団体
認知症サポーター養成延人数	7,019人	11,030人	8,000人	11,259人

【評価および今後の方向性】

げんきスポット数は、コロナ禍により活動が縮小した団体もあったため、目標値を達成することはできませんでした。今後は、支援を必要とする高齢者を広く受け入れる通いの場の充実を図っていきます。

認知症サポーターの養成延べ人数は目標値を達成しました。今後は、市主催で定期的に認知症サポーター養成講座を実施していくとともに、団体の特性・ニーズに応じた認知症に関する普及啓発講座を展開していきます。こうした講座を通して、認知症に対する正しい知識を啓発し、市民の理解を深めていきます。

◇生活困窮に関する自殺対策の推進に関する指標

項目	策定時 (H29)	中間評価 (R3)	目標値 (R5)	最終評価 (R5)
生活困窮者自立支援調整会議 への参加機関数	11 機関	16 機関	14 機関	16 機関

【評価および今後の方向性】

令和3年度に1機関を加え、計16機関で生活困窮者自立支援調整会議を開催（「半田市ふくし“まるごと”会議」の一部として開催）しています。

会議では、複合的な課題を抱える対象者等についての情報共有を図り、支援方針等について検討を行っています。その中で、希死念慮が強いと判断した場合は、医療機関へつなぐことも視野に入れ、自立相談支援員が健康課の保健師とともに面談や対象者宅を訪問するなどし、自殺が発生しないよう注意を払っています。

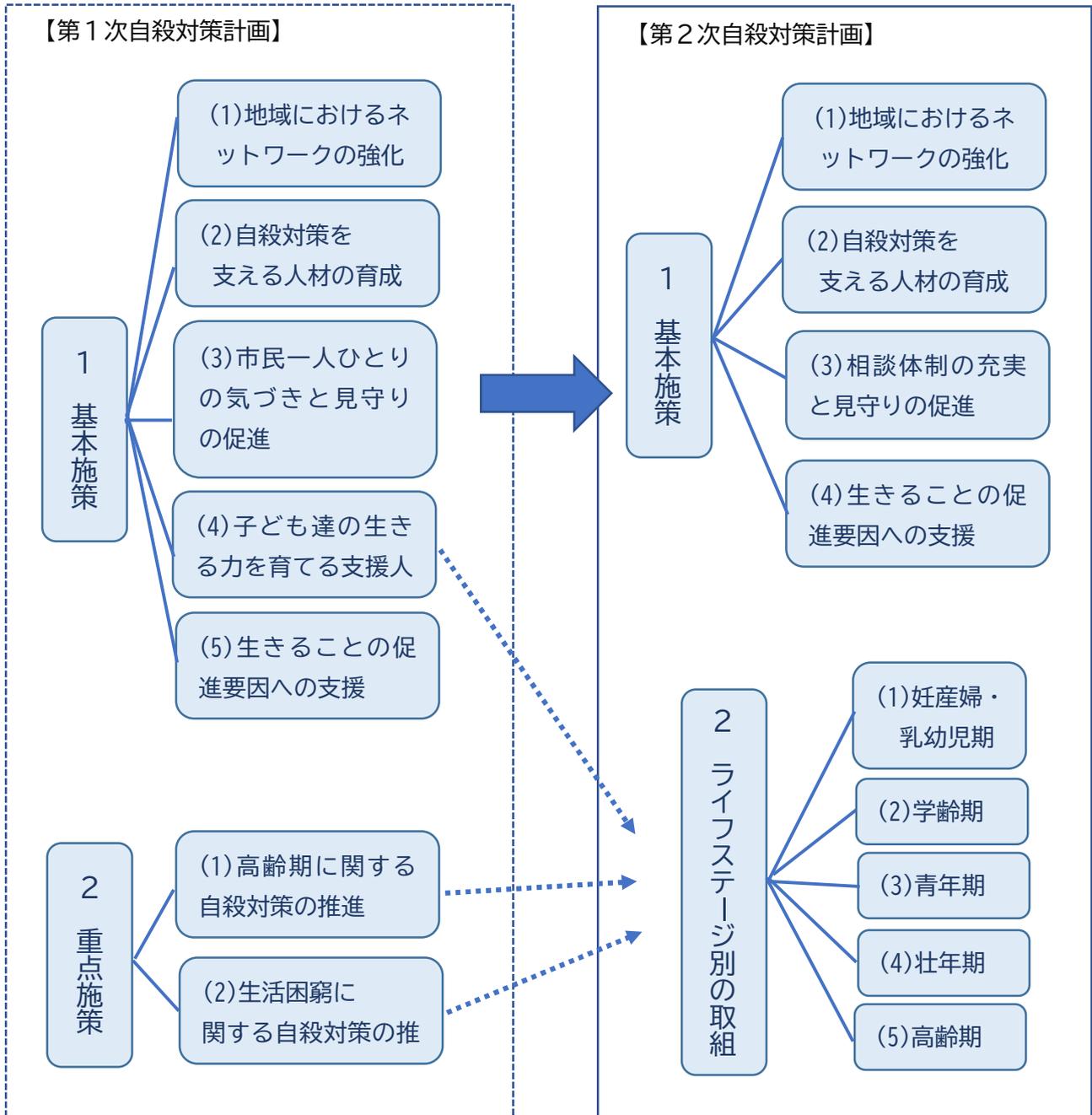
近年、令和2年～3年をピークに自立相談支援機関「くらし相談室～あんしん半田～」(生活援護課内)における新規相談者数は減少傾向にありますが、相談の過程の中で、自立相談支援員が「希死念慮がある」と判断した相談者が令和5年度に増加しており、今後そのような相談者が増えていくのではないかと推測しています。

なお、本会議の参加機関(=支援者)が増えることで、複合的な課題を抱える対象者に対して、多角的な視点による横断的なアプローチが可能となります。各々の機関が役割分担を行い、伴走的な支援を展開していくことで、自殺者減の一助になるよう努めていきます。

■「くらし相談室～あんしん半田～」(生活援護課内) 新規相談実績

年度	H31	R2	R3	R4	R5
新規相談者数	238人	695人	605人	385人	299人
うち、相談員が“希死念慮がある”と判断した相談者数	8人 (3.4%)	8人 (1.2%)	5人 (0.8%)	1人 (0.3%)	8人 (2.7%)

◇計画の体系図の変更について



半田市自殺対策計画の骨子（素案）について

- 1, 取り組みの方向性
- 2, 指標
- 3, 市の取り組み

基本施策

- (1) 地域におけるネットワークの強化
 - ・自殺対策推進協議会の実施
- (2) 自殺対策を支える人材の育成
 - ・ゲートキーパー養成講座の実施
 - 市民向け
 - 事業所向け
- (3) 相談体制の充実と見守りの促進
 - ・普及啓発（自殺予防週間を含む）
 - ・相談窓口の整備
 - ・自殺予防週間、自殺対策強化月間
- (4) 生きることの促進要因への支援
 - ・孤立を防ぐ居場所づくり
 - ・生きることの包括的な支援

ライフステージ別の取り組み

- (1) 妊産婦・乳幼児期
- (2) 学齢期
- (3) 青年期
- (4) 壮年期
- (5) 高齢期

※現状と課題、前計画の評価などは、健康増進計画と一体的に策定予定。

第2次自殺対策計画の名称について

1 提案

本計画は名称に「自殺」を用いてきたが、第2次計画から「自死」に変更し、計画名を「第2次自死対策計画」としたい。

2 理由

- ① 本計画は、これまで自殺者数の減少に取り組む計画、と認識されることが多かった。本計画の推進においては、自殺という行為を防ぎ止めることに留まらず、自ら死を選ぶことを防ぎ、生きることを支援する取り組みであることを表現したい。
- ② 多くの自治体が「自死」を用いている。
＜参考＞
鳥取県、宮城県
大府市、米子市（鳥取県）、雲南市（島根県）、
登米市、石巻市、亶理町（宮城県）
広島市、東広島市は「自殺（自死）対策計画」と表記
- ③ 全国統一で「自死」を用いるのは、自死遺族や自死遺児など遺族に関連した表記であり、亡くなった方や遺族への偏見や差別、心情に配慮したものと推察する。
- ④ 近年、YouTubeなどSNS上では、自殺は「自〇」と表記している。「殺」という文字を避ける傾向がある。

3 自殺の表記について

単に自殺を自死に置き換えるものではなく、用途により使い分ける。

- ① 法律用語や統計用語、会議体の名称といった固有名詞は「自殺」を用いる。
- ② 行為を表現するときは「自殺」を用いる。また、その行為を防ぎ止めることは「自殺防止」と表す。（自殺企図、自殺のサインなど）

参考：NPO 法人全国自死遺族総合支援センター「自死・自殺」の表現に関するガイドライン

【資料5】

令和6年度 半田市民健康づくり推進協議会および自殺対策部会について

1 委員の構成について

	氏名	所属
1	新美 親紀	半田市医師会
2	天埜 克彦	半田歯科医師会
3	加藤 玲美	知多地区薬剤師会
4	中村 誉	愛知県健康づくり振興事業団
5	山下 陽道	全国健康保険協会 愛知支部
6	森 邦弘	半田市老人クラブ連合会
7	竹内 華奈子	半田商工会議所 女性会
8	岩田 若菜	半田市食生活改善推進員協議会
9	石川 誠子	半田市 PTA 連絡協議会
10	竹内 かつみ	半田市健康づくり連絡協議会
11	山崎 千佳	半田保健所健康支援課長
12	高橋 聡	金城学院大学（自殺対策部会 代表委員）
13	加藤 昌子	さえずりの杜（自殺対策部会 代表委員）

2 実施スケジュール（令和6年度）

自殺対策部会（半田市いのち支える自殺対策協議会）

第2回：6月27日（木）14時～

本会

第1回：5月30日（木）14時～

第2回：7月11日（木）14時～

第3回：9月12日（木）14時～

第4回：1月23日（木）14時～

第3次健康はんだ21計画及び
第2次半田市自殺対策計画（素案）の骨子について

第1章 計画策定にあたって

- 1 計画策定の背景と趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間
- 4 SDGsとの関係

第2章 本市の健康に関する現状と課題

- 1 統計からみる現状（自殺に関するデータ含む）
- 2 前期計画の評価（自殺対策計画含む）

第3章 計画の基本的な考え方

- 1 基本理念
- 2 基本方針
- 3 計画の体系

第4章 具体的な施策内容

I 健康はんだ21計画

- 1 ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり
- 2 生活習慣の改善
 - ・栄養、食生活（食育）
 - ・身体活動、運動（スポーツ）
 - ・休養、睡眠、こころの健康
 - ・飲酒、喫煙
 - ・歯、口腔
- 3 生活習慣病の発症予防と重症化予防
 - ・がん
 - ・循環器疾患
 - ・糖尿病（CKD 含む）

II 自殺対策計画



ここに自殺対策の骨子が入ります

III 健康づくりのための環境整備

第5章 計画の推進